
創作支援会話集

efyin

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

創作支援会話集

【Nコード】

N2313B

【作者名】

efyin

【あらすじ】

ファイアーエムブレムに出てくるキャラクター同士が織り成す会話の数々

ジャムカ&ディアドラ++フィン&ラケシス(前書き)

ヴェルダン繋がりでジャムカとディアドラ。フィンラケ会話は、二人の出会い〜第四章で別れるまで

ジャムカ&ディアドラ++フィン&ラケシス

ジャムカ&ディアドラC

「ディアドラ」

あ…

「ジャムカ」

…精霊の森の巫女…か…

「ディアドラ」

は、はい。ディアドラと申します、ジャムカ王子

「ジャムカ」

精霊の村の者は、元々外界とは関わりを持たないと聞いた、慣れない事も多いだろう

「ディアドラ」

はい…ですが皆さんが親切にして下さいますから、少しずつ慣れて来ました

「ジャムカ」

今の暮らしが楽しいか

「ディアドラ」

はい、とても…

「ジャムカ」

そうか…

ジャムカ&ディアドラB

「ジャムカ」

お前は人と交わってはならないという宿命を背負っていると聞いた。もし破れば、この世界に大いなる災いが降りかかると…

「ディアドラ」

……

「ジャムカ」

俺は幼い頃、その話を聞いて、わけの分からない宿命を負わされた娘が哀れだと思った

「ディアドラ」

宿命の事は、私にも分かりません…でも…時々不安になります

「ジャムカ」

安心しろ、シグルド公子は迷信を気にされるような方ではない。彼といれば、何も心配いらないだろう

「ディアドラ」

はい…

「ジャムカ」

巫女…いや、ディアドラ…お前の幸せを祈っている

「ディアドラ」

ジャムカ王子…ありがとうございます…

フィン&ラケシスC

「ラケシス」

あの…貴方は？

「フィン」

ノディオンの姫、ラケシス様ですね。私はレンスターの騎士フィンと申します。

微力ながらお力に添いたく思います

「ラケシス」

まあ、ありがとう

「フィン」

シグルド様の為にも、エルトシャン王の為にも、どうか、御身を大切にしてください

「ラケシス」

ええ。フィン…でしたね、怪我をしたら私の所へ来て下さい

「フィン」

はい、勿体ないお言葉です

フィン&ラケシスB

「ラケシス」

あ、フィン。ここにいたのね

「フィン」

ラケシス様、私に何か御用ですか？

「ラケシス」

少しいいでしょうか？フィンは、私の戦いを見てどう思われますか？

「フィン」

率直に申しますと見事な剣さばきです。ですがラケシス様はノディオンの王女。

あまり前線に出られるべきではありません。我々がお守りいたします

「ラケシス」

ありがとうございます。フィンの側にいると安心できます

「フィン」

私はまだ未熟者です。どうかもっと安全な場所へ…

「ラケシス」

だって、フィンが危険な目に遭っているのに…

「フィン」

ラケシス様…

フィン&ラケシスA

「ラケシス」

フィンは…この戦いが終わったら、レンスターへ帰ってしまうのでしょう？

「フィン」

…はい。私はレンスターの騎士ですから

「ラケシス」

貴方に出会えた事、本当に感謝しています。

私は貴方の側にいる事がとても嬉しかったのです。

叶うならずっと一緒にいたいと…そう思っていました

「フィン」

ラケシス様…私は…

「ラケシス」

いえ…分かっています。もう…いいのです…

「フィン」

ラケシス様、一言だけお許しください。私も貴女と同じ気持ちでした。どうか、お幸せに

「ラケシス」

ああ…フィン…

ライナス&ジャファル++ライナス&ウハイ(前書き)

支援Bまで

ライナス&ジャファル++ライナス&ウハイ

ライナス&ジャファルC

「ライナス」

今日のヤマはこれで終わりか・・・

(ジャファル、ライナスの背後に現れる)

「ライナス」

!

(位置が元通りになる)

「ジャファル」

・・・

「ライナス」

何だ、【死神】か…俺の後ろに立つんじゃないぞ！

「ジャファル」

・・・

(ジャファル消える)

「ライナス」

全く、気味の悪い野郎だぜ・・・

ライナス&ジャファルB

(ライナス、ジャファルの背後に現れる)

「ジャファル」

・・・何か、用か。

「ライナス」

！ちっ

(ライナス消える)

「ジャファル」

・・・

(ジャファルが消え、ライナスが現れる)

「ライナス」

何なんだあの男は！くそっ・・・

ライナス&ウハイC

「ライナス」

ようっウハイ

「ウハイ」

・・・ライナスか。・・・！

(ライナス、ウハイに切りかかる。ウハイ、それを避ける)

「ウハイ」

頭を冷やせ、私は味方だよ

「ライナス」

悪いな、むしゃくしゃして、つい当たっちゃった

「ウハイ」

ふっ・・・お前のことはよく知っている。何かあれば、頼りにしろ

「ライナス」

ありがとよ

ライナス&ウハイB

「ライナス」

兄貴には、力では勝ってる筈なんだよな

「ウハイ」

ライナス、余り無理をするなよ

「ライナス」

でもよ、力はともかく、技のキレ、スピード・・・。

いくらやっても、どれをとっても兄貴の足元にも及ばねー

「ウハイ」

ふっお前は、何かにつけて兄貴、だな。

安心しろ。お前はまだ、力の使い方を少ししか知らないだけだ

「ライナス」

って事は、力の使い方もっと覚えれば、兄貴を越えられるのか？

「ウハイ」

まだ未来の予測の域を出ない。だが、確実な未来が欲しければ自分で作り上げればいい。
お前にはそれが出来る

クロード&フュリー（前書き）

神父×天馬騎士なカップル。コップル×フィーも好き

クロード&フュリー

クロード&フュリーC

「フュリー」

失礼します、グランベルのエツダ教の司祭クロード様ですか？

「クロード」

はい。あなたはシレジアの方ですね。

グランベル人ではないあなたが何故私の名を？

「フュリー」

私はシレジアの天馬騎士フュリー。

わけあってシグルド公子の軍に籍を置いています。

シグルド公子より、あなたを護衛するよう命を受けました。

「クロード」

そうでしたか…。

では、宜しくお願い致しますね、フュリーさん。

「フュリー」

はい！

クロード&フュリーB

「クロード」

フュリーさん。ご無事でやっておられますか？

「フュリー」

あ、はい、ありがとうございます。クロード様もご無事のようですね。

心致しました

「クロード」

ええ、私が無事なのもあなたの活躍があればこそです。とても、感謝していますよ

「フュリー」

そ、そんなクロード様、私の力など微々たるものです。この戦いの間、何度あなたに助けられたことが…

「クロード」

助けていただいたのは、私の方ですよ、フュリーさん。神よ、どうかこの者をお守りください

「フュリー」

・・・クロード様・・・あなたが危ない時や私が怪我をした時は、すぐにあなたの側まで戻ります。どうか、宜しく願います

「クロード」

ええ、必ず

クロード&フュリーA

「フュリー」

クロード様、ご無事ですか

「クロード」

ええ、私は大丈夫です。

ですがフュリー、貴女はもうここにはいけません。シレジアへ

戻りなさい

「フユリー」

ですが…

「クロード」

私は最後まで見届けなければならぬのです。それが努めですから

「フユリー」

本当に…どうする事も出来ないのでしょうか…

「クロード」

フユリー、貴女を愛していますよ。

あなたには苦勞をかけますが子ども達を頼みます。どうか許してくださいね

「フユリー」

ああ、クロード様…

クロード&フュリー（後書き）

このカップリングも結構メジャーですよ。くっつけた事が無い方は是非お試しあれ

ヨハルヴァ&ラドネイ(前書き)

ヨハンかヨハルヴァかって言うところとしてもヨハルヴァを選んでしま
う。ヨハンも好きですけどね。

ヨハルヴァ&ラドネイ

ヨハルヴァ&ラドネイC

「ラドネイ」

.....

「ヨハルヴァ」

ようっラドネイ！

「ラドネイ」

ヨハルヴァ？何か用？

「ヨハルヴァ」

どうしたんだよ、何を考えてたんだ？

「ラドネイ」

大した事じゃないわ。

ねえ、あなたのお父さん…じゃなくて、お母さんってどんな感じだった？

「ヨハルヴァ」

ははは！母ちゃんが恋しくなったのか？

「ラドネイ」

ふふっやっぱり何でも無いわ、もっと強くならなきゃね。

ヨハルヴァ、相手になってくれる？

「ヨハルヴァ」

よしっそこなくちな！

ヨハルヴァ & ラドネイ B

「ラドネイ」

ヨハルヴァ

「ヨハルヴァ」

おお、ラドネイじゃねえか！

「ラドネイ」

また腕を上げたみたいね。

誰よりも強くなるって言うってたもの、あなたが言うんだから本気なのよね

「ヨハルヴァ」

当たり前だろ、おれはもっと強くなるぜ！

お前だけでなくセリスや他の連中を守ってやれるぐらいな

「ラドネイ」

ヨハルヴァ…あなたって人は…

「ヨハルヴァ」

な、何だ！？

「ラドネイ」

ふふっ何でもないわ。ただ…

「ヨハルヴァ」

うん？

「ラドネイ」

あなただって本当にいい男ね

「ヨハルヴァ」

！

「ラドネイ」

じゃあ、私は行くわ。無茶は駄目よ。またね

「ヨハルヴァ」

ま、待てよラドネイ！

ヨハルヴァ & ラドネイ A

「ラドネイ」

ヨハルヴァ、大丈夫なの？

「ヨハルヴァ」

くう、さすがの俺もこの戦いは苦しいぜ。

だが、ドズル公国も取り戻した事だしもう少しがんばってみるよ

「ラドネイ」

ええ、でも無茶は駄目よ。貴方には国を立て直す義務があるのよ

「ヨハルヴァ」

ああ、分かっているさ

そうでなくちゃ死んだオヤジやアニキは浮かばれないからな。

ラドネイ、手伝ってくれるよな

「ラドネイ」

ええ、貴方には色々世話になったしね

「ヨハルヴァ」

うおお、有難いぜ、好きだあ、ラドネイ!!

「ラクチエ」

もうっ、ヨハルヴァたら、バカね!

ヨハルヴァ&ラドネイ(後書き)

シヤナン×ラクチエだもんで、ヨハルヴァ(ヨハン)にはラドネイ
を(笑)

デルムッド&ジャンヌ（前書き）

子世代ではナンナとジャンヌは同時に出現している設定。
（設定的に無理じゃないよね）

デルムツド&ジャンヌ

デルムツド&ジャンヌC

「デルムツド」

ジャンヌ、無事か？

「ジャンヌ」

はいっ王子もご無事で何よりです！

「デルムツド」

そうか、安心したよ。君は我が軍にとっても大切な戦力だから

「ジャンヌ」

有難きお言葉です、王子。

…それにしても、以前、父がお守りしていたラケシス様のご子息にお会い出来るとは…

嬉しさの余り、心が震える思いをしました

「デルムツド」

私も同じアグストリアの人間に会えて嬉しい。頼りにしているよ、ジャンヌ

デルムツド&ジャンヌB

「ジャンヌ」

王子の剣、更に磨かれましたね

「デルムツド」

それほどじゃないさ。この戦が始まってから、君も確実に腕を上げて
いる。

君が側にいると、安心感があるよ

「ジャンヌ」

勿体無いお言葉です

「デルムツド」

そんなにかしこまらなくていい。

「ジャンヌ」

王子、心配なのはそれだけではありません！

私は王子を・・・あ・・・私、そろそろ行きます！

「デルムツド」

ジャンヌ

「ジャンヌ」

は、はい！

「デルムツド」

何を焦っているんだ、無茶をするんじゃないぞ

「ジャンヌ」

はい・・・。

でも、貴方に心配されるのが、どうしてこんなに嬉しいのでしょうか。
・
・

デルムツド&ジャンヌA

「ジャンヌ」
デルムツド様！

「デルムツド」
ジャンヌ！？今からでも遅くは無い、君は城に残るんだ

「ジャンヌ」
お気持ちは嬉しいですが、この戦いはいつ終わるか分かりません。
デルムツド様が心配なのです。私も栄光あるノディオンの聖騎士の
娘。

この一命にかえても最後までデルムツド様をお守り致します！

「デルムツド」
ありがとうジャンヌ。君には感謝しているんだ。
だが、無理をするんじゃないぞ。死んではいけない。そして、共に
アグストリアへ帰ろう

「ジャンヌ」
はい！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2313b/>

創作支援会話集

2010年10月10日14時36分発行